

## 豊田野乃花

所属大学：佐賀大学 教育学部

学校教育課程小中連携コース

県内インターンシップ先：さが環境推進センター

留学先：フィンランド ヘルシンキ

留学期間：2019/11/1 ~ 2020/3/16

受入機関名：The Finnish Nature League  
Luonto-Litto



### 活動概要と成果

Luonto-Litto は現地の若者に対して、環境教育を行ったり、野生生物保護のための講演会を出張で行ったり、地域の人と一緒にワークを通して交流とフィンランドについて知ってもらうようなイベントを行っている。今回はこのNGOで「野生生物の保護イベント」や「日本文化紹介イベント」「国立公園ツアー」の企画運営に携わらせてもらった。一番の学びとなったことは、フィンランド人の自然に対する関わり方であった。「自然教授権」という権利があり、森や自然は国民のものであるから、誰であっても自由に使っていていいというものであった。さらに、国民の環境に対する意識も高く、教育現場でも「環境について教えることは大切だ」という声を聞いた。私は、今回留学に行くまで、「ヴィーガン」や「デポジット制度」について全く知らなかった。しかし、フィンランドで、これらは当たり前前に日常に溶け込んでいて、日本とフィンランド（ヨーロッパ諸国）での環境に対する取り組みの差というものを実際に見ることが出来た。環境教育は学校現場だけでなく、地域・行政も巻き込んで行わなければ進まないということに気付いた。インターンシップを通して知ったことは、フィンランドの人たちは日本にとっても興味を持っていてくれるということであった。

### 日本発信プロジェクト活動概要と成果

#### ○ Japanese Culture Day

##### ー実行したこと

インターン先の活動の一環として、日本文化紹介のイベントを地域のユースセンターで開催することとなった。このイベントでは、日本文化について知ってもらおうと考え、「書道」「折り紙」「日本のお菓子」のブースを作って、地域の子どもたちをメインターゲットとした企画を行った。書道では、漢字を選んで自分で書いてもらったり、来てくれた人の名前に漢字をあてはめて書いてみたり、折り紙はいくつか見本と折り方の手順を準備して一緒に作ったりした。日本のお菓子とお茶は現地の日本食ショップで購入したお菓子をみんなで食べて、日本茶や有名なお菓子を紹介した。

### 一成果・気づいたこと

ワークショップを行ったユースセンターの方からもう一回日本文化のイベントを開いてほしいと言われてもらえるくらい、参加者には楽しんでもらうことが出来た。イベントを通して気付いたことは、フィンランドの人たちは日本文化にとっても興味を持っているということであった。今回行った3つのブースの中で一番人気だったのは書道だった。特に日本語に興味を持っている人が書道を選んで、筆で書くことを楽しんでいた。日本人はフィンランドのことについてまだまだ知らない人が多いが、こんなに日本に興味を持ってきているフィンランドの人がたくさんいるということを知りたいと思った。

### 留学中及び帰国後の活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと

留学中はうまくいかないことばかりで、挫折ばかりしていた。例えば、在留許可がうまく下りなかったこと、現地で家がなかなか決まらなかったこと、一緒に住んでいたホストファミリーとあまりうまく行かなかったこと、インターン先でなかなかコミュニケーションが取れなかったことなど数えきれないくらいあった。これらの経験から、「厳しい環境でも何とかいい方向に進める力」がついた。上手くいかないことがあった時、一つの方法で挑戦しても、たいていそれは上手くいかなかった。そこで、何通りも解決策を考えて、実際に試してみて、上手くいかなかったら落ち込みすぎずに次の方法を試すということを繰り返した。何度も挑戦して、現状を打破する機会が多くなった結果、今まで一回やって出来なかったら悲観的になっていたが、「何とかなる。何とかする。」という前向きな気持ち、そして粘り強い気持ちが前よりも成長したと強く感じる。

### 事前・事後インターンシップの活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと

事前・事後インターンでは佐賀県の環境学習施設でイベントの企画・運営のお手伝いをさせていただいた。今まで、施設名や大体の内容しか知らなかったが、改めてどのような目的をもってその施設があるのかや、佐賀県が世界でも先進的な「二酸化炭素分離回収」という取り組みを行っているということを知った。イベントで、スタッフさんや地域の人と関わる中で、環境についてどれくらい地域の人に関心があるのかを知ることも出来た。事後インターンでは、留学後ということもあり、環境問題や世界の取り組みについての知識が入った状態で活動することが出来た。そこで、今までは気付かなかった日本の取り組みの遅さや、日本人の環境に対する関心の低さというものがさらに分かるようになった。今までは、環境問題の深刻さを伝えなくてはと思っていたが、留学を通して、多くの人に関心を持ってもらえるような発信の仕方・伝え方はどのような方法がいいのかまで考えてイベントを作ることが出来るようになった。

### トビタテで得た経験を踏まえ、今後どのように地域貢献をするか

トビタテで得たもので私に影響を大きく与えたものは「志を持つ仲間」と「日本では出来なかった経験」であった。留学後すぐに始めたことが「とまりぎ」というトビタテの同窓組織の九州副代表と学習会の企画・運営であった。留学中だけでなく、留学後も「環境問題」や「教育」に興味関心を持つ仲間が全国で広がった。今後は、佐賀県で教員となる予定だ。まずは、教室の子どもたちと一緒に「環境問題」について考え、次に地域の人たちにも発信して、佐賀県から「気候変動」について考え・行動する波を広げていきたい。子どもたちには、「自然環境」について知識だけで知ってもらうのではなく、体験的活動や、身近に自然を感じる機会を増やすところから始めたい。そして、最終的には、佐賀県の推進している環境に優しい街づくりを教育の現場から支えて、佐賀県に貢献したいと思う。

### あなたにとっての留学の価値

私にとっての留学の価値は「自身の成長」「熱い仲間」である。留学を遂行するに当たって、計画性・実行力・責任すべてを自分自身で持つ必要があった。これら3つを常に考えて実行するという機会は今まであまりなかった。留学を通して、この3つの力が身についたと強く実感している。また、事前研修や事後研修を通して仲間と出会うことが出来た。ここで出来た仲間は熱い志を持ち、それぞれの分野に取り組んで輝いている仲間たちであった。自分がやってみたい企画があった時に声をかけたら一緒に取り組んでくれたり、それぞれ分野が違うことから今まで知らなかったことを知ることが出来たり、留学後も学び続け、そして熱い気持ちをもって取り組む事が出来る原動力となっている。もちろん、留学先で経験したことや、自分自身の未熟さを認知したこと、世界には面白いことがあると知ったことも留学の価値であるが、やはり「仲間」との出会いは、自分の中で一番の価値となった。